

**さいたま市オリンピック・パラリンピック教育の推進
 ~2020年7月に向けて~**

さいたま市教育委員会では、オリンピック・パラリンピック教育(以下、オリ・パラ教育という。)の目的を「スポーツの意義や価値等に対する関心を高めるとともに、理解を深め、豊かなスポーツライフの実現に向けて、スポーツへ主体的に参画する態度を育成すること」とし、3つの取組方針を掲げ、オリ・パラ教育を推進しております。

小・中学校での東京2020大会に関する授業の実施

1校1国運動やオリ・パラ教材を活用した授業に取り組みます。

様々な人々との交流を通じた教育の推進

国際ジュニア大使を活用した訪日外国人や選手との交流会や競技会場周辺のボランティアを実施します。

子どもたちの国際性・社会性を育む体験づくり

本市で事前キャンプをする国々の選手との交流やパラリンピックを目指す選手との交流等に取り組みます。



パラスポーツ選手との交流~未来くる先生によるふれ愛授業~

「夢工房未来(みらくる)先生ふれ愛推進」事業を活用し、パラスポーツ選手を講師とした交流を行っております。授業では、講師の話聞き、障害を乗り越え、自分のよさを最大限発揮し、活躍されてきた生き方に触れたり、目標に向かって努力し、挑戦し続けてきた技術を目の当たりにしたりするなど、選手との交流を通して学ぶ子どもたちの姿が見られています。



未来くる先生の3選手
 左から平澤選手・加藤選手・高橋選手

子どもたちの国際性・社会性をはぐくみます!

9月3日(火)、オランダ選手の事前キャンプ受入れによる交流を市立浦和高等学校で行いました。また、食を通じた異文化理解として、令和2年4月より、参加国の料理を月1回程度取り入れるオリパラ給食を各校で実施します。右下の写真は、今年度、先行して実施している鈴谷小学校の「ギリシャ料理」です。



令和元年9月3日(火) 空手交流を行いました。



さいたま市立鈴谷小学校
 ギリシャ「ムサカ」「アヴゴレモノ」

令和元年11月30日(土)、青少年宇宙科学館で開催した「宇宙のまち さいたま」記念フォーラムにおいて、細田真由美教育長が市長、議長をはじめ約300名の市民の皆様の前で、高らかに「宇宙のまち さいたま」を宣言しました。

「宇宙のまち さいたま」宣言
 さいたま市教育委員会では、宇宙や科学に関する教育を柱として、宇宙時代をたくましく生き、未来を創造する人材を育てるため、「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトを策定し、ここに「宇宙のまち さいたま」を宣言します。
 令和元年11月30日
 さいたま市教育委員会教育長 細田 真由美

「宇宙のまち さいたま」記念講演・パネルディスカッション開催!
 JAXA「はやぶさ2」プロジェクトマネージャ 津田 雄一氏をお招きし、記念講演「はやぶさ2 そして未来へ」を開催しました。津田氏には、「はやぶさ2」が撮影した映像等を用いて、探査の成果やプロジェクトマネージャとして大切にしている「困難を乗り越えるチームワーク」などについて御講演いただきました。さらに、パネルディスカッションでは、津田氏をコーディネーターとして、若田宇宙飛行士アカデミー修了生である5名の中学生パネリストが、夢あふれる未来の「宇宙のまち さいたま」について熱く語り合いました。

「『宇宙のまち さいたま』教育プロジェクト」を発表しました!



「宇宙のまち さいたま」として、宇宙時代をたくましく生き、未来を創造する人材の育成を目指して策定した「『宇宙のまち さいたま』教育プロジェクト」を、本フォーラムにおいて初めて発表しました。
 本プロジェクトは、「宇宙時代」の到来を見据え、目指す人間像や身に付けたい資質・能力などの教育理念等と、宇宙や科学に関する約1,000にのぼる講座や教室などの教育プログラムを、STEAM教育を柱に総合的・体系的に整理・統合したアクションプランから構成されております。

市教委掲示板

9月4日発行の教育委員会だより第10号でお知らせしました「学校と地域に関するアンケート」の調査結果をまとめた報告書を本市のWEBサイトに公表しました。このアンケートは、学校と地域の実態や意識を把握することで、コミュニティ・スクールの実施に関する基礎資料を得ることを目的に実施したものです。
 詳しくは、さいたま市WEBサイト >子育て・教育 > 教育 > 主な事業 > コミュニティ・スクールを推進しています、を御覧ください。

教育長室の窓から

ラグビーワールドカップ日本大会での日本代表チームの史上初のベスト8入りを果たす活躍は、魂が震えるほどの感動を私たちに与えてくれました。同時に大会を象徴する新たな言葉も生まれ、それを裏付けるかのように今年の流行語大賞には、日本代表チームが掲げたスローガン「ONE TEAM(ワンチーム)」が選ばれました。
 私は、この言葉はこれからの持続可能な社会を実現していく鍵になる言葉だと確信しています。出身国の異なる選手たちが困難を乗り越えてチームの団結力を高め、見せてくれた今回の見事なパフォーマンスは、私たちに「ONE TEAM」としての本物のあるべき姿、価値を教えてくれています。「ONE TEAM」は、まさにレガシーであり、本市の教育が目指す人間像「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」の実現にもつながるものです。
 ワールドカップがもたらした貴重な財産が、流行語で終わることなく、東京2020大会へとさらに磨き高められていくことを願っております。

編集後記
 紹介した内容の詳細は、さいたま市教育委員会WEBサイト「教育長記者会見」を御覧ください。今年も「教育委員会だより」を御覧いただき、ありがとうございました。
 【第12号編集担当】管理部教育政策室048-829-1626